

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（地域魅力アップイベント創出育成事業、産業活性化 プロジェクト促進事業）
開催日時	令和4年4月15日（金） （午前・ 午後 ） 1 時 00 分 開会 （午前・ 午後 ） 3 時 30 分 閉会
開催場所	茨木市男女共生センターローズ WAM501
議 長	野口 義文 氏（立命館大学産学官連携戦略本部）
出席者	野口義文氏（立命館大学 産学官連携戦略本部）、伊津田崇氏（中小企業 診断士）、辻田素子氏（龍谷大学 経済学部）、板倉幸司氏（公募市民） 【4人】
欠席者	前川哲司氏（北おおさか信用金庫 業務推進部）
事務局職員	河原商工労政課長、武部商工労政課長代理兼商工振興係長、 大下商工労政課職員、上山商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業及び茨木市産業活性化 プロジェクト促進事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金の選考について ・資料3 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表 ・資料4 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料5 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料6 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～6説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

1件目のCO-クリエーションデザイン smileinfeel (以下申請者) から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：雨天時の対応策はどのように考えているのか。

申請者：雨天の場合は翌週に延期する予定で準備している。昨年は雨天の予報の中イベントを実施したが、その際は音響や照明機器を全てビニールでくるみ、対策を行って実施したため、小雨であれば開催可能だと考えている。

B委員：昨年のイベント実施の際、一昨年開催の時と比較してどのような人の参加が増え、リピーターは多くいたのか、また今年度はどのように見込んでいるのか。

申請者：リピーターについては、一昨年事前予約をしてくれた人に対して昨年のイベント開催時にも告知を行った内、200名程度予約があった。昨年新たに増えた参加者については、新たにキッズダンスやバルーンショーを実施したため、子どもたちや親御さんの参加がとても多かった。今年度も、1日目と2日目で内容を分けて実施するため、様々な層の参加が見込めると考えている。

C委員：イベントとして世代間交流を掲げているが、そのために何か工夫していることはあるか。

申請者：お客さん同士の世代間交流というのは、やはりコロナ禍もありなかなか難しいが、スタッフについては20代～60代まで幅広く、一緒にイベントをすることによる世代間交流は活発に行われていると感じる。またシニアプラザとも連携しており、そのようなつながりの中での交流も行っている。

D委員：保険の加入は収支予算に含まれているか。

申請者：公園内での事故やけがについては、バラ園全体が保険に加入しているので、特に加入の必要はない。このイベントに係る保険に関しては、機材の会社に機材の貸し出しと合わせて依頼している。

B委員：補助金の交付回数は最大6回までとなっているが、今後イベントの継続について資金面はどのように考えているのか。

申請者：なかなかオープンな公園でのイベントにおいて、入場料を取ることは難しいため、今年から協賛にかなり力を入れている。

D委員：広域から協賛を募るのであれば、もう少し広告宣伝費をかけてもいいのではないか。

申請者：協賛を依頼する文書等に関しては、予算は昨年より多く見積もっている。また今年はクラウドファンディングにも取り組みたいと考えているが、それについては私自身が個人で行えるため、予算には計上していない。

(2) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

2件目の茨木音楽祭実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：収入について物販や飲料の売上割合が多くを占めているが、イベントの予算状況として、市の補助金が無くなってもイベントは継続していいのか。

申請者：イベントの収入について当日の物販や飲食物の販売が占める割合は大きいですが、この部分に関しては天候等に大きく左右されるため、あまり割合が大きいことは良いことではない。そのため今は様々な企業にスポンサーとして参入いただいているが、今度は民間企業に参入してもらおうと、その企業の意向も汲まなければならないため、我々の理念にそぐうものかを判断していかなければならない。自分たちは「茨木市のために茨木市の魅力を市内外に発信する」という目的があるが、企業色が強くなりすぎると興業イベントのようになってしまうため、そのバランスは難しいものと考えている。今後補助金に頼らず自立化を目指すにあたり、企業スポンサーだけに頼るという事も難しいと考えているが、運営費を集めることは非常に大切であるため、企業には丁寧に説明の上、参入いただけたらと思っている。

また市の補助金だけでなく、大阪府や文化庁の補助金も受けている。補助金に頼るのはもちろん良くないが、文化芸術としてのイベントを継続していくためにも、企画等は毎年考えて工夫していく必要があると考えている。

B委員：2日で5万人の動員が上限なのか。3日間開催するなど、今後さらに参加者を増やすことは考えていないのか。

申請者：5万人というのは警察発表ではあるが、新型コロナ対策も必要であり、これ以上人数を増やすのは現実的に厳しいと考えている。そのため自分たちは来場者数の増加というより、来場者数の満足度を上げたいと考えている。イベント当日だけでなく、前後2日も準備にあたるため、3日開催は体力的に厳しいものがある。

B委員：協賛金について、令和元年に比べて減額になっているがその理由は。

申請者：コロナ禍において協賛企業が減少したため減額となり、それでもイベントが実施できる予算計画を立てている。コロナ禍から回復した際には、協賛金の増額も見込めると考えている。

C委員：現在の協賛企業は何社ほどあるのか。増加傾向にあるのか。

申請者：協賛企業については、パンフレットに掲載している。パンフレットに広告を掲載するにも冊子のスペースにも限りがあるため、パンフレットだけではなく、ホームページのWebバナーや、当日出店といった形での協賛も考えている。

C委員：警備費は妥当であるのか。また警察との調整は出来ているのか。

申請者：警備会社に委託して警備を行っているのは、メイン会場のグラウンドと交通量が多い阪急茨木市駅前のみとなっており、その他の会場は屋内や交通誘導がしやすい場所であるため、実行委員会メンバーが誘導をしている。

(3) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

3件目のいばりピック実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：前は50名の参加者で、1人2,500円の参加費を徴収したとのことだが、今回は200名の参加者で参加費3,000円としている。500円値上げしているが、参加者昨年より多くなっており、どのように集客する予定か。

申請者：参加者からアンケートを取ると、お弁当やTシャツの提供もあったため、3,000円でもいいのではないかという意見があり、値上げをすることにした。

A委員：収支計画において、補助金が収入の半分を占めているが、今後の事を考えると比重が高すぎるのではないか。

申請者：将来的には茨木マラソンを計画しており、そこで大きな集客を見込むことができるため、参加料収入の大幅な増額を見込んでいる。またマラソンの開催により、見に来る方も増えると予想されるため、飲食ブースの出店を増やし、出店料による収入も増額になるため、その二点で収入を増やしていきたいと考えている。

B委員：昨年の参加者はどのような人が参加されたのか。

申請者：飲食店の方や、その店のお客さんといったコミュニティの2チーム、市役所職員の方々のチーム、実行委員会の知り合いに声掛けして集めたチームの計4チームで開催した。

B委員：今回参加者が増えるを見込んでいるが、どのように集めて、どのような人に参加してもらおう予定をしているか。

申請者：「茨木音楽祭」でのPRブース出店や、LINEでの情報発信、チラシ・フライヤーで早期に参加者を募りたいと考えている。ターゲットは30代～50代の健康に意識を持ち始めた年代の方に来てもらいたい。

B委員：お弁当やTシャツの配布を無くし、500円～1,000円ほどの参加費で、参加者を募るという事は考えてはいないのか。

申請者：お弁当はコロナ禍の事もあり、できるだけその場で飲食をしてもらいたいという目的があった。またTシャツについても、チーム分けの目的があったため、それ

ら無くす考えは今のところない。

D委員：現時点で参加者の見込みはどれくらいか。

申請者：昨年参加してくれた人からはまた参加したいという声が多く、倍程度は参加が見込めると思っている。

D委員：周りの出店ブースとはどのように連携していくのか。

申請者：全体で15チームほどになった場合、全チームが競技に参加することは難しいため、休憩しているチームの参加者に、IBALAB@広場で休憩してもらったり、周辺で開催しているワークショップに参加してもらったりといったことが可能になる。

下の広場ではサッカー教室などの開催を予定している。

D委員：スピーカー等を使用して、会場内に音楽を流したりするのか。

申請者：昨年も実施したがDJブースのような場所を設け、競技内容にあった音楽を会場内に聞こえる音量で流してもらう予定をしている。

D委員：将来的に茨木マラソンの開催を目指しているが、コース等は考えているのか。

申請者：委員会の中でも色々な意見があるが、例えばバーチャルでの開催はどうかといった意見が出ていたり、商店街の中を走りながら協力店で飲食するようなアイデアが出ていたりする。マラソンに関しては様々な意見が出ているが、競技として実施するのはハードルが高いと言われているため、市との調整は不可欠になってくる。

C委員：前回と比べて予算が大幅に増額になっているが、要因の1つである賃金・報償費について、検討の余地はあるか。

申請者：報償費については、教室を3つほど開催する予定で、それぞれ講師に依頼すると10万円ほどかかる。賃金については私たちの考え方として、ボランティアという立場ではできるだけ依頼したくないと考えおり、当日のスタッフにはきちんと報酬を支払いたいと思っている。昨年は参加者と同人数の20名のスタッフに依頼してちょうどいいくらいで、今回は2.5倍の50名を予定している。

C委員：サッカー教室の講師は何人依頼するのか。

申請者：講師は4人で、スタッフと3人一組で教室を運営してもらうつもりである。

収支バランスについては、将来的に茨木マラソン開催のため、PRに力を入れたいという点と、参加者の安全の確保のため、少し多く見積もっている。

B委員：事業計画の中に実行部隊として30名ほどとあるが、今はどれくらいの人が集まっているのか。またその人たちには報酬は払うのか。

申請者：実行部隊は現在15名ほど集まっており、あと15名ほど集める必要がある。その人たちにも報酬は払う予定をしている。

B委員：感染症対策費用について、経費が高額になっているが、何か理由があるのか。

申請者：飲食を実施することが大きい。また私たちも経験が乏しいため、2,000人の参加者に対して、必要と思われる感染症対策費用について、概算で計上している。

B委員：将来的に茨木マラソンの開催を目指しているが、どうつながっていくのか。茨木マラソンの開催のタイミングで、このイベントは終わってしまうのか。

申請者：イベントの競技の一つとして、メインの種目として茨木マラソンを開催することを考えている。

(4) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1 件目の茨木市建設総合協同組合（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：前回開催した際は3,000人ほどの参加者に対し、イベントの時間が3時間と短い
が、もう少し長くしてもいいのではないかと。

申請者：グラウンドの使用後、返却するための片付けの作業にとっても時間を有するため、
これ以上時間を長くすることは考えていない。

B委員：実際に参加されたのはどのような人たちか。

申請者：前回開催時は、市内小学校の全児童にチラシを配布したが、実際に参加したのは
その児童の弟や妹といった未就学児のお子さんが大半だった。また Facebook や
SNS でイベントの情報を発信してくださった方もおり、市外や府外からの参加者
もあり、驚いた。広報の方法については、前回の方法と大きく変えることは考え
ていないが、組合としても Facebook を始めたため、そちらでの広報も行ってい
きたいと考えている。補足として、建設機械だけでなく、消防車やパトカー、高速
道路を走りながら道路の状態を管理する車両等も、色々な行政機関と連携し出展
してもらう予定をしている。市からも道路パトロールカーやパッカー車等を出展
していただく予定で、関係機関もイベントを楽しみにしてくれているようである。

C委員：事業予算は組合から拠出するのか。

申請者：組合から全額拠出予定である。

A委員：雨天の場合、イベントは開催するのか。

申請者：天気の状態にもよるが原則中止の予定である。理由としては、雨の中だと体験等
のイベントが安全に実施できない可能性があるため。写真撮影だけ可能にする可
能性はある。

5 審査結果

(1) CO-クリエーションデザイン smileinfeel

480 点中 344 点 ⇒ 採択案件

(2) 茨木音楽祭実行委員会

480 点中 346 点 ⇒ 採択案件

(3) いばりニック実行委員会

480 点中 292 点 ⇒ 不採択案件

(4) 茨木市建設総合協同組合

480 点中 357 点 ⇒ 採択案件

<選考基準>

出席委員の評価点合計の65%以上(120点×4人×65%=312点)を取得した事業を、
採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の1/2(120点×1/2=60点)
以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上